

第1志望合格を勝ち獲るための常道と戦略

まず「6,7月の過ごし方」について話をしました。「受かる心構え」の人は今の立ち位置から受験本番までの距離を測り、学力を積み重ねられる人。なぜなら、今の自分を知り、改善すべき箇所を分析し、今の自分以上に努力や工夫をしようとするからです。「現役生は最後まで伸びる」は本場で、この心構えを持っている人が条件。逆に「NGな考え」の人は現在の学力（模試の結果）で判断する人。今の自分を変えていこうというより、今の自分に合わせて考える。だから安易に志望校を下げる。それは「第1志望に受かりたい」より「落ちたくない、不安」が上回っていて、自分を成長させる機会を自ら奪っている。第一志望に受かりたいのなら当然、前者の心構えを持つこと。この期間は、「自分にとっての基礎」を徹底的にじっくりできる期間であり、夏休みでジャンプアップするために「キャパシティー」（勉強量、姿勢、覚悟）と自分の可能性を広げられる大事な“蓄積”期間なのです。

次に「自分の立ち位置と志望校までの距離を知る」として、まずスタディーサポートを使って自分達の学力の変遷、先輩達との比較をしました。2年から3年にかけて「S1が29人→11人」、「S層が127人→65人」に減ってしまいました。逆に「B層が25人→87人」に増えてしまいました。B層は「地方国公立挑戦レベル」。この動きは当然よろしくない。元々いたところから落ちた人が一定数いるということです。しかし、先輩達との比較をすると、ほぼ同じ動きをしています。先輩達も2年から3年にかけてS層が減り、B層が増えているんです。だからこのまま行けば例年の結果からあまり外さない結果になると予想できます。でも、「だから問題ない」という話ではなく。2年から3年にかけて一定数の人が「落ちてしまった」ということは、2年次の数字に戻せればもっと第一志望のところに合格する人が増えるということになります。2年次の層に自分を戻す。V字回復をする。4月の学習時間調査では一つ上の先輩達の6月に匹敵しています。全体としては頑張っている。6月の学習時間調査ではさらにアップできるよう意識してこの学年の学習量のスタンダードを上げていこう。

この時期は、目線を上げて第一志望をロックオン。でも、目線の上にあるということは“何か”が足りないということ。現時点で足りないのは、現在の学力（知識不足）なのか、演習不足なのか、学習量なのか、集中力なのか、取り組む姿勢なのか、執念なのか、要領なのか、考え方なのか。こういった足りない何かをクリアしないと、乗り越えないと第一志望合格には手が届かない。殻を破る。目線を上げたところを目指すということは、チャレンジャー（挑戦者）の立場ということだ。失敗を恐れない。失敗や間違いをした方が記憶に残るし絶対に次に間違えないようになる。挑む気持ち、“足りない何か”を絶対にクリアしてやるという気持ちを強く持って、残りの受験生活を過ごすのだ。

次に、今年度の受験動向の予想を語りました。昨年度から「文高理低」「私立大の難化の高止まり」は今年度も続きそう。そして、センター試験ラストイヤーによる“浪人したくない”安全志向、現役志向強まり、ここ数年で一番厳しい入試になると予想します。某予備校では、「今年度の入試は『しっかり準備した者が勝つ』入試」と言っていました。今がその準備期間！

その動向を踏まえて、いくつかの対策・戦略を話しました。

全体的には、「私大よりも国公立」「周りが安全志向なら強気で（周りが“降りる”なら受かりやすいという理屈）」「国公立にこだわるなら、最後は地方国公立まで（特に理系）」「国公立後期まで絶対に粘る」「私立専願組は3教科で受けられる国公立を受ける。そして後期までしっかり出願をしておくことが“二の矢、三の矢”に」。

国公立医学部を目指す人には、「〇〇大学医学部生になりたいのか or 医療従事者として人のためになりたいのか」を問いました。自分の学力を最大限伸ばす。そしてそれでもギリギリの勝負になった時、全国の医学部に目を向ければ（全国どこでも行く気になれば）“受かる＝医師になる”可能性が

上がる。そして、昨年度、前女浪人生が国公立医学部に複数合格しました。これは、前女生のある一定層は医学部に受かる力がある。現役で受かりたければその努力を現役ですればいい。医学部や難関国立を目指す生徒は、だからこそ我武者羅に、チャレンジャーの気持ちで。

私大専願者は厳しい入試、だから文系は英・国・社（数）をどれも妥協することなく、とことんまで伸ばす。でも、やはり「英語」。「ユルい私文」はNG。私文組が頑張るかで学年、クラスの雰囲気は俄然変わる。私文組が頑張れ。引っ張れ。早慶上智志望者は「上智 or 早稲田 or 慶応」ではなく、「上智 and 早稲田 and 慶応」志望とすべき。

●まとめ～夢を見てる3年生に贈ります～

- ①チャレンジ。そして、チャレンジする集合体となれ。堂々と。一歩前へ。
- ②来春、第一志望の大学のキャンパスを歩いている自分をはっきりと想像せよ。「絶対に受かる」と毎日言葉にせよ。
- ③合格に“何か”が足りないのなら、今の自分を変える。「固定観念」なんて言葉、辞書にあるなら塗りつぶせ。「自分はこんなもん」という決めつけ、自分で限界の線を引いてしまうのは絶対にダメ。
- ④今年現役志向ということは、来年は上位層が少ない、競争相手が少ない入試が予想される。今から浪人を考える必要はない。でも、今から本気でやってそれでも来春届かなかった時「悔しいなあ」という気持ちがあるなら「もう1年やってやる」という選択肢も考えていい。
- ⑤夢を願ひ、夢に挑み、夢を叶える1年にしよう。